

# ユーザーマニュアル 1.14

## Easy Apply シリーズ施工時の注意点

Avery Dennison™ Easy Apply 製品は、効率よくエア抜けさせ貼付することを念頭に、開発された粘着材です。簡単に位置決めが出来る Easy ApplyRS シリーズは、車両ラッピング等のように大きなグラフィックスを施工するのに、今までにないほど素早く貼付することを可能にしました。

*注記：各製品に適したアプリケーション、加工方法ならびに施工環境等、製品に関する情報は製品データシートにて、作業を開始する前にしっかりと把握しておいてください。製品に関するすべての情報を正しく理解し、製品に関する作業指示をすべて順守したうえで、作業を開始してください。*

### Easy Apply シリーズの特徴

Avery Dennison™ Easy Apply は、Easy Apply と表記されている製品のみに装備されております。この Easy Apply シリーズを使用すると、シワや気泡といった問題に悩まされるリスクが軽減されます。貼付時のこうしたリスクを軽減するのに加え、被着体に貼付してから数分以内であれば、グラフィックスの再剥離/再貼り付けも可能です。小さな気泡であれば貼付後でも比較的容易に取り除くことが可能です。

Easy Apply シリーズを使うことにより、簡単かつ短時間で本格的なグラフィックス施工を実現することができます。

### 被着体のクリーニングと事前準備

#### 施工前の事前準備について

粘着製品を適切に貼付するには、被着面がクリーニングされ、乾燥した状態であることが最も重要です。具体的な技術内容はユーザーマニュアル 1.01 『被着体のクリーニングと事前準備』,ユーザーマニュアル 1.4 『粘着製品の貼付方法』をご参照ください。

#### 粘着製品、被着体及び施工環境の温度について

施工時における、粘着製品や被着体・施工環境の温度は接着力に大きな影響を与えます。各製品の特性を確認し、適切な作業環境で作業を行ってください。

- 極端に低い温度では、粘着特性が十分に発揮されません。低温では粘着力が弱くなるため、施工中や施工後に不具合が生じる危険性（リスク）が高くなります。
- 推奨する温度は 15～25℃です。

注記：Easy Apply シリーズの推奨施工温度は、比較的広く設定されております（詳細は各製品データシートをご参照ください）。推奨温度の範囲であれば低い温度で粘着製品を貼付することも可能ですが、しっかり確実に接着させるためには、通常以上の圧着力と施工時間が必要となります。また、粘着剤がきちんと接着したことを確認できるまでは、切り文字用のアプリケーションテープや施工した車両を移送することは、注意が必要になります。高温や多湿の環境下では、粘着材が被着面に触れて一旦接着すると、位置決め作業が困難になります。気温や被着面の温度が 30℃を超える場合には、Avery Dennison™ Easy Apply のエア除去機能が十分に発揮されないことがあります。

## 施工に必要な工具について

Easy Apply シリーズは、従来の工具と技法で貼付することが可能で、特別な工具は不要です。

- 各種スキージ（パッド付き）
- 施工用グローブ
- ヒートガンやドライヤー
- スクレーパー/カッターナイフなど
- 気泡除去ツール（エアリリースペン）
- マスキングテープ
- マーキング用の鉛筆（チョークタイプのマーキングペンはお奨めいたしません）
- その他（リベットブラシなど）

## Easy Apply シリーズの施工

### 貼付け作業について

- Easy Apply シリーズでは、絶対に水貼りによる施工を行わないでください。
- スキージを使用する場合には、スキージを進行方向に対し 45 度傾けて斜めに持ち、被着面に対しできるだけ寝かせた状態で施工します。
- 圧着する場合は均等な力でスキージ幅の半分程度のピッチで、空気を押し出すように進めていくのがポイントです。
- 粘着製品の貼付け作業が完了したら、ポストヒーティングを忘れずに行ってください。施工時に引き伸ばされたフィルム全体に熱を与える（90℃~100℃）ことにより、形状を記憶させ経過によって元の形状にもどる特性を抑制することができます。
- 一般的な施工方法に関しては、ユーザーマニュアル 1.4 『粘着製品の貼付方法』をご参照ください。

## 気泡およびリベット周辺の処理

- 施工時に発生した気泡は、気泡の中央部分を指先で軽く押さえる（叩く）ことにより、ハニカム形状の粘着層を空気を通りぬけ取り除くことができます。ただし、気泡の大きさにより（例：20 mm 以上ある場合）針などの空気除去ツール等を使った、従来の手法で空気を取り除く必要があります。
- リベット周辺に浮き上がりが発生した場合は、リベット頭部を下に押さえつけながら空気をリベット外周に集めます。針などの空気除去ツールで小さな穴を開け、空気を取り除き、リベット周辺を軽く温めます。フィルムが温かい間に、柔らかいスキージやリベットブラシ、指等を使って、フィルムをしっかりと圧着させます。
- リベット周辺の粘着製品をしっかりと付けるには、必ず熱を加えリベット頭部の中央から外側に向かって、円を描くように押し付けていきます。

**注記：リベットの材質により密着しない場合が有ります。事前にテストを行って下さい。**

## スキージによる再圧着処理

貼付け作業が終わった後に粘着製品全体を再度圧着させるこの作業は、フィルム端部の剥がれによる不具合を抑えるための大切な工程です。

- 貼付け作業後、粘着力がある程度上昇し安定するように、少なくとも 5～10 分程度は放置します。
- アプリケーションテープを取り外します。
- スキージでフィルムの端部（重なり部分・継ぎ目部分）を再度圧着します。グラフィックスを引っかいたり、傷つけたりしないように、パッド付きスキージを使用してください。
- グラフィックスの端部は、再圧着を確実に実施することをお奨めいたします。

## 粘着度の確認

環境温度は、感圧式フィルムの貼付作業に影響を及ぼす、大きな要因となります。気温が高い環境下のフィルムは、通常より短時間で本来の粘着力を発揮します。推奨する温度より低い環境下では、粘着性を発揮するまでにかなりの時間を要します。場合によっては、数日を要することもあります。

条件の異なるさまざまな環境下での貼付作業や、新しい工具および手法に慣れるまでは、簡単なテストを実施してグラフィックスの下に気泡ができないかご確認ください。

- 貼付け作業後 24 時間が経過しますと、粘着剤は本来の接着性能を発揮します。
- パッドの付いたスキージを使用し、しっかりとグラフィックスの細部まで圧着します。
- テストを実施した際に直径 25 mm 以上の気泡が発生した場合には、貼付方法や施工温度が適切でないことがあります。施工方法および作業環境を再度ご確認ください。

詳細につきましては、エイブリィ・デニソンもしくは最寄りの取扱店までお問い合わせください。